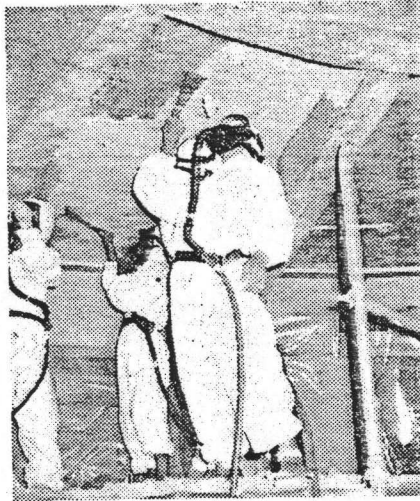


## 「安全に石綿除去します」

### 三井物産が事業化決定

ビルの断熱材として多用されてきた石綿(アスベスト)の発がん性が社会問題化しているが、三井物産は二十一日、米国最大のアスベスト除去企業C R I社(コントロール・リサーチ・インダストリー、本社・ミシガン州)、国内の大手保温・保冷工事業者、明星工業(本社・大阪市)と手を組んで本格的にアスベスト除去事業に乗り出すことを明らかにした。



年前から注目されてきた。現在には発がん性に関心の高い地域で学校の壁面に、断熱材として使ったアスベストの除去作業が自治体予算で進められている。

しかし、アスベストの除去の際、作業の途中でアスベスト粉が飛散すると住民が被害を受ける一などが問題。

今回、三井物産が米国から導入した技術では作業員は体全体をすっぽり包む宇宙服のような作業着を身に付け、飛散を防ぐ湿潤剤を吹きつけてから除去を始める。はがした後には封じ込め剤を塗布するが、これらの作業は、ビニールシートですっぽり覆った作業場で行い空調管理や作業員の出入りの際のシャワーなど健康管理も徹底して行われるという。

物産が事業化する石綿除去作業